

はにい かくせ、かくせ

平成29年7月31日

年長児と年中児が手をつなぎ、幼稚園から歩いて近くの川に出かけた。年長児は、さりげなく車道側に移動して年中児を守るように歩いている。

川のふちの遊歩道を、ぴよんぴよんと軽快に石を渡る年長児。「こわいよ」と言って教育支援ボランティアの方に手を添えてもらう年中児。

「わあ こんなに深いよ」とズボンのすそを持ち上げてどんどん中に入っていく。

「あーあ ぬれちゃった」と満面の笑み。

「一緒に葉っぱを流そうよ」「どの葉っぱにしようかな」「大きい葉っぱがいいかな」「今度は木の棒にしてみよう」好奇心が膨らむ。

「これ、なんだろう」土から出ている何かを見つけた。片手でひっぱってみた。



「取れないや」
周りを掘ってみる。
「取れないね」
「すごくつながっているみたいだね」
「なんだろ、なんだろ」
「サツマイモかな」
今度は、両手で引っ張ってみる。
「よいしょ、よいしょ」
「やっぱり抜けない」

「大きなカブみたいだね」

「うんとこしょ、どっこいしょ」

掛け声が変わった。

「抜けないね」

3人で力を合わせてみたが、なかなか抜けない。どうしようかと相談していたところ、先生の集合の声が聞こえてきた。

「かくせ、かくせ」

みんなに見つからないように土をかぶせた3人。こんもりと少し土の色が変わった土の下に何があるかは、3人だけのひ・み・つ。



『はにい』はコミュニケーションツールです。 みんなで語り合しましょう。
ご意見・ご感想は → inochi4027@pref.kanagawa.jp